

## 平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【食】【交流】【若者、女性の力】

1. 都道府県、市町村 山形県<sup>つるおかし</sup>鶴岡市
2. 団体名 株式会社産直あぐり
3. 取組みの名称 緑の下の力持ちから中核組織へ成長した女性の会
4. 取組概要等

### ◇概要

米の生産調整による稲作収入の減少、農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化、後継者不足の中で旧櫛引町では、平成3年以降、地域の特色を活かし、果樹・野菜等を振興するフルーツタウン構想が掲げられた。

そのような中で平成8年12月にフルーツタウン直売施設運営管理組合が設立され、平成9年9月には農産物直売施設「産直あぐり」が開設された。その後、農産加工施設の開設、農家レストランの開業などフルーツタウン構想の拠点として整備され、平成20年5月には「株式会社産直あぐり」として登記された。

直売施設として果物や野菜、花、山菜、米の産直や、地域の特産品を活用した加工品の製造販売、地域の食材を活用した地産地消料理の農家レストランのほか、交流イベントも積極的に行っている。5月の山菜・孟宗まつり、9月のフルーツまつり、2月の雪まつりなど、多彩なイベントの開催が交流人口の拡大、リピーターの確保や集客数の増加につながり、また、店頭では対面販売を行い消費者とのコミュニケーションを積極的に図っている。

さらに、都市農村交流の推進として東京都新宿区神楽坂での産直販売の実施、横浜市立青木小学校の修学旅行での農業体験受け入れ、旬の果物を福祉施設へ提供することで地域福祉への参画も行っている。

多彩な取り組みの中で、組合立ち上げ時から活動してきた「あぐり女性の会」は、株主と株主家族の女性で構成されており、86名の当番制で販売などを行うほか農家レストランのサポート、施設内の装飾など、運営全般にわたる組織として活動している。また、平成20年度には産直あぐりの情報発信誌「テクテク通信」を発刊し、女性の会メンバーと産直あぐり従業員が情報を持ち寄りそれぞれの紙面に書き込み、イベント情報等も入れて発行している。

### ◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
売り上げ	312,072	315,425	302,058	342,832	354,565
解説	単位：千円 組合員の農産物、加工施設、レストラン等の合計				
来客数	423,088	476,014	467,467	494,793	498,777
解説	単位：人 産直施設、レストランの入込客数の合計				
雇用者数	12	12	12	12	12
解説	単位：人 従業員10名、パート2名				
イベント回数	13	13	11	15	15
解説	単位：回 さくらんぼまつり、雪まつり など				
イベント参加者	58,968	65,087	40,559	46,228	51,768
解説	単位：人 さくらんぼまつり、雪まつり など				

### ◇活用している地域資源

櫛引地域には多彩なくだものがあり、それらはそれぞれの集落に適した果樹を栽培してきた先人達の努力の賜物であり、フルーツの里としての礎になっている。

6月のさくらんぼ、7月からはもも、ぶどう、りんご、8月には和・洋なし、10月には庄内柿と、6月下旬から11月下旬のりんご・ふじの収穫が終了するまでくだもの収穫が続き、加工施設で作られるジュースやジャムの原料となっている。平成18年度には手作りのジュースをシリーズとして商品化し、平成20年度からはさくらんぼ、ぶどう、りんご、和なし、ラフランス、庄内柿をセットにしたジュース「庄内果物紀行」を販売する。

### ◇地域活性化のポイント

食の安全が叫ばれ、野菜嫌いの子供たちが増えている中、地域で子育てしている若い女性層向けに産直あぐり女性の会が主催となって、安全で安心できる地域の農産物を使った料理教室として鶴岡市の施設を活用し8月から4ヶ月間、毎月第4火曜日の夜に開催している。

さらに、地域の農産物を販売する産直あぐり、食材とする食彩あぐり、原料とする加工あぐりを地域の小中高校生への体験学習の場として可能な限り提供しているほか、地域の福祉施設で製品化された商品の販売、高等養護学校の生徒たちが自分たちで作った製品を自ら販売する体験の場としても提供している。

### ◇事業の今後の展開方向

数多くの産直施設が建ち並ぶ中、独自の特色を確立していかないと生き残っていくのは難しいと危機感をもっている。そこで、食の安全・安心を求める消費者へのニーズへの対応としてトレーサビリティシステムを平成17年度に導入しているほか、年々取組む作物を拡大している。

また、加工品の開発に積極的に取組み、地域の農産物を原料にして、あぐりの特徴を活かした加工品を開発していく。

現在、女性の会が隣接するあぐり農園で学校給食用のジャガイモやかぼちゃを栽培しているが、農園を「体験農園」としてイベント時に開放するなど、地域の特性を活かし消費者が安心して利用でき楽しめる施設としていくことで地域の発展にもつなげていきたい。

